

高松神社本殿



よみ
指定
種別
数量
所在地
所有者
指定日

たかまつじんじゃほんでん
市指定有形文化財
建造物
1棟
御前崎市門屋
高松神社
平成19年9月25日



高松神社本殿の木鼻(波頭)

詳細情報

構造 千鳥破風付入母屋造平入、本繁垂木垂木二軒銅版一文字葺
(ちどりはふつきいりもやづくりひらいり、
ほんしげたるきふたのきどうばんいちもんじぶき)
三間社、総檜造(そうけやきづくり)

解説

高松神社は、大宝元年(701)に文武天皇の勅願により、紀州の熊野三社権現から勧請されたと伝えられます。中世期には「笠原庄一宮」として広く信仰を集めてきた神社です。

本殿は、三間社(桁行三間、梁行三間)、総檜の素木造(しらぎづくり)です。平面は、手前より7.5畳敷きの外陣(げじん)、その奥に内陣(ないじん)、内々陣(ないないじん)の三室で構成される。正面には五級の木階(もっかい)を備えています。

棟には堅魚木(かつおぎ)と内そぎの千木(ちぎ)を置き、中備(なかぞなえ)に暮股(かえるまた)を備え、各隅柱に獅子頭、象鼻、波頭などの木鼻を挿しています。全体的に和様の手法でまとめられており、軒廻りは豊富な彫刻で飾られているのがこの建物の見所です。再建された年代は天明4年(1784)11月と伝えられ、建築部材の風食程度や各所を飾る細部意匠絵様彫刻などを総合すると、まさしく江戸中期の建築と考えられます。